

日本語・朝鮮語の表現について

—受身と使役—

大 村 益 夫

〔一〕 はじめに

外国語と日本語の対比が日本語教育の上で有効であるか否かの一般論はさしおいて、朝鮮語¹⁾を解する日本語教育者がきわめて少数である現状においては、日朝両言語の対比は容易にその有効性を発揮しえない、とわたしは考える。わたし自身の経験についていえば、わたしの知らない外国語と日本語との対比についての論文は読む気がおこらないし、多少知っている外国語と日本語との対比論は、だいたいが啓蒙的・非専門的・思いつきのものが多く興味をそそられない、というのが正直なところである。

しかしながら、日本語教育を専門とする者が、同時に朝鮮語の専門家であることは困難であろうし、その限りにおいて朝鮮語の専門家からの対比論は、それなりに有効性をもつであろう。その意味で朝鮮語専門家の2論文と、日本語教育専門家の1論文を次に紹介しておく。

(一) 塚本勲『日朝比較表現論』(国立国語研究所『日本語と日本語教育』所収。S51.5)

この論文は「朝鮮人に日本語を教授する教師の参考のために」朝鮮語がどんな外国語であるか、語順・動詞・助詞・敬語・翻訳等について概括的に叙述している。

1) 本論における朝鮮語という語は、学問的・歴史的・文化的範疇に属する用法であることをあらかじめおことわりしておく。

(二) 北嶋静江『日本語朝鮮語対照言語学の展望』(『朝鮮学報』85輯。S 52.10)

個々の具体例を示しながら日朝両国語の文法の一部について比較対照している。学会誌に発表したものではあるが、朝鮮語教師であれば一度は必ず教室でぶつかる問題をとりあげて論じている。

(三)『韓国人学生に対する日本語教育の留意点及び今後の研究課題』(国際基督教大学, 1975年度文化庁委託研究)。

網羅的・総括的でないが、日本語教育の立場からの問題意識には富んでいる。今後も「日韓両語の用言活用の仕方と類似性の整理」をし、「用語活用形の用例と日韓対照表」、「韓国語の語尾の用例集と日本語表現対照表」を作成する予定らしいが、あまりに遠大すぎて実現可能な計画であるように思われない。

以上3論文のほかにも李文子の『現代朝鮮語の受身表現について——日本語との対照——』という学会発表があるとのことだが、活字化されていないので見ることはできない。

日朝両言語を統体として対照しようと試みたのが上記3論文であり、日本語教育をおこなおうとする人にはぜひ一読をおすすめしたい。この3論文がある以上、わたしは同一のテーマについて書く気はない。外国語との比較対照が、日本語教育にどれほどの有効性をもたらすかについて楽観主義者ではないわたしができることといえば、ひごろ悩まされている朝鮮語の受身²⁾や使役の表現がどのような体系をもつかを、きわめて不完全ながらも、日本語との対比を念頭におきつつ述べることであらう。

「れる」「られる」は通常、受身・尊敬・自発・可能をあらわすとされる。ところが朝鮮語においては、この四意を表わそうとすれば、それぞれまったく別個の表現形態をとる。朝鮮語を母国語とする日本語学習者は、初期の段階でまず助動詞と称せられるものの前にとまどい、かつ、なかなかこの部門を卒業できないといえよう。北では、通常、名詞・数詞・代名

2) 朝鮮語では一般的に「被動形」「被動態」という語を使う。

詞・動詞・形容詞・冠形詞・副詞・感動詞の8つの品詞を設定し、韓国＝南ではこれに助詞を加える。助動詞はたてようがない(韓国では、「～てみる」「～てくる」といった補助動詞を助動詞と称することがある)。日本語の学校文法における受身・使役の助動詞に相当する機能は、朝鮮語の場合、直接的には接尾辞(補助語幹とする説も有力)がはたす。この接尾辞は次のような特性をもつ。(1) 尊敬・時称の接尾辞は原則的にすべての動詞につきうるが、受身・使役の接尾辞は一部の動詞にしかつかない。(2) 受身・使役の接尾辞は他の接尾辞にさきだって動詞語幹のすぐ後につく。(3) 他の接尾辞(たとえば尊敬)はそれが直接つく動詞だけでなく、動詞の前にある語句・文章等にも関連をもちうるけれども、受身・使役の接尾辞は直接つく動詞にのみ作用する。

〔二〕 受身・使役の用例

本論は3つの部分から構成される。第1は、日本語の受身・使役の表現を朝鮮語に置きかえようとするとき、可能な場合もあり不可能な場合もあるのだが、可能な場合にどういう表現をとるかを分類してみる。

第2に、朝鮮語の受身・使役表現の全体像の概略を紹介してみる。この部分は1978年7月20日の講演の際に資料として配布したが、原稿にするにあたっては、枚数の制約上、大幅に圧縮したことをおことわりしておく。

第3は、国立国語研究所『現代語の助詞・助動詞』の「させる」「しめる」「せる」「られる」「れる」の全用例の文章を朝鮮語訳した上で、日本語との対比を試みようとするものである。

〔I〕 受身の用例

この章の用例は、2例を除いてすべて『日本文法大辞典』(松村明編、明治書院、S46年)の「受身の助動詞」、「使役の助動詞」の項にひかれているものである。なお()内は朝鮮語の直訳である。

a 型

(イ) 子供が先生にほめられる。

어린이가 선생님에게 稱賛을 받는다。

(子供が先生に稱賛を受ける。)

(ロ) 入賞者は賞金を与えられる。

入賞자는 賞金을 받는다。

(入賞者は賞金を受ける。)

または、

入賞자는 賞金을 받게 된다。

(入賞者は賞金を受けるようになる。)

入賞者에는 賞금이 授与된다。

(入賞者には賞金が授与される。)

のちに述べるように、韓国語でも쓰다(使う)に対して쓰이다(使われる)があり, 팔다(売る)に対して팔리다(売られる)がある。だが、「ほめられる」「与えられる」「愛される」等にあたる単独の動詞はなくて、「稱賛を受ける」「(賞金)を受ける」「愛を受ける」のごとく表現しなければならない。その際に使われる動詞は받다(受ける)だけでなく당하다(当たる)も使われる。

(ハ) 人より早熟なK嬢はこの手紙事件によって停学させられた。

남들보다 早熟한 K嬢은 이 便紙 事件으로 停学당했다。

(人々より早熟なK嬢はこの手紙事件によって停学に当たった。)

「そんな事をされるとは思いもよらない」という文を、朝鮮語では 너가 그런 짓을 할 줄은 생각지도 못한다。(おまえがそんなよからぬ事をするとは考えもできない)と表現するのがふつうだが, 너에게 그런 일을 당할

3) 漢字の字体の問題についていまは触れない。字体の問題は、朝鮮民主主義人民共和国では、特殊な歴史的事物をあつかう文章等を除いて、一般言語生活のなかでは漢字が使用されないから問題にならない。韓国では少数の略字以外は旧字体が使われている。多数の略字の制定よりは、使用漢字の削減・撤廃をめざしているようだ。本論では朝鮮語の文章のなかでも日本の当用漢字体をそのまま使うことにする。

줄은 생각치도 못한다。(おまえにそんなことを当たるとは考えもできない)とも言えないこともない。また、「妻が夫に浮気をされる」は, 남편이 오입을 함으로 처가 배신을 당하다。(夫が誤入〔浮気〕することにより妻が背信を当たる)と表現される。

b型

(イ) 子供に泣かれて閉口した。

애기가 울어서 혼이 났다。

(子供が泣いて魂が出た——ひどいめにあった。)

(ロ) 君にそこに立っていられると、僕が通れないよ。

자네가 거기에 서 있으면 내가 갈 수 없소。

(君がそこに立っていると、僕が行けないよ。)

(ハ) 遠足の途中で雨に降られた。

소풍途中で 비를 맞았다。

(遠足の途中で雨を迎えた。)

「子供に泣かれる」「君に立っていられる」「雨に降られる」等に対応する朝鮮語の受身表現はない。そのかわりに「子供が泣く」「君が立っている」「雨を迎える」のように直接的な表現をする。迷惑や被害の感情は動詞そのものでは表現できず、文章全体とのかかわりのなかで表現するほかない。

日本語からみると朝鮮語は実に受身表現の幅がせまいが、朝鮮語からみれば日本語は不必要なところまで実に受身を多用する。

b型の例をさらにあげれば、「親が子に死なれる」は 아들이 아버지보다 먼저 죽는다。(息子が父よりさきに死ぬ)に, 「となりの犬にほえつかれた」は 이웃집의 개가 나를 보며 짖었다。(となりの家の犬がわたしを見てほえた)に, 「かれは敵に息子を殺された」は 그의 아들이 적에게 죽었다。(かれの息子が敵に死んだ)になる。つまり「死なれる」「ほえられる」「殺される」といった表現がないのである。もっとも 그는 적에게 아들을 빼앗기었다(かれは敵に息子を奪われた)と動詞をかえてしまえば可能では

あるが。

c 型

二字の漢字語に-하다(hada する)がついた하다動詞の一部は, 하다のかわりに-되다(tôda される)をつければ受身になる。

- (イ) 名誉が毀損される。

名譽가 毀損된다。

(名誉が毀損される。)

- (ロ) 犯罪が当局によって摘発される。

犯罪가 当局에 의해서 摘発된다。

(犯罪が当局によって摘発される。)

- (ハ) 会社側によって一方的に閉会が宣言された。

会社側에서 一方的으로 閉會가 宣言되었다。

(会社側から一方的に閉会が宣言された。)

d 型

朝鮮語の一部の自動詞・他動詞の語幹の後に接尾辞を挿入し受身をあらわす。「れる」「られる」をつけて受身をあらわす日本語と対比できるのは、本来的にはこの型だけであろう。

- (イ) 樹木にかこまれた家々

樹木에 둘러싸인 집들

(樹木にかこまれた家々)

- (ロ) この本は広く学生たちに読まれている。

이 책은 널리 學生들에게 읽혀지고 있다。

(この本は広く学生たちに読まれている。)

- (ハ) 大きな足跡が見出される。

커다란 발자취가 보인다。

(大きな足跡が見える。)

(イ)では싸다(ssada かこう)を싸이다(ssaida かこまれる)とiを語幹と語尾の間に入れ, (ロ)では읽다(ikta 読む)을읽히다(ilkhida 読まれる)と

hiを入れ, (ハ)でも보다 (poda 見る)を보이다 (poida 見える)とiを入れて受身にしている。もっとも보이다 (poida)が「見られる」の意味で使われることはまずなく、「見える」という自動詞の意味で使われるのが普通である⁴⁾。

〔Ⅱ〕 使役の用例

a 型

(イ) 今月から外来者にもプールを使用させることにした。

이달부터 外来者에게도 풀을을 { 使用하게 했다.
使用하도록 했다.

(この月から外来者にもプールを使用するようにした。)

(ロ) そんなに読みたければ読ませてやってもよい。

그렇게 읽고 싶으면 { 읽게 해도
읽도록해도 } 좋다.

(そのように読みたければ読むようにしてもよい。)

(ハ) 何が彼女をそうさせたか。

무엇이 그녀를 그렇게 하게 했나.

(何が、彼女をそのようにするようにしたか)

この型は、「～のようにする」という意味で, -게 하다 (-ke hada) ま

4) 朝鮮語のもうひとつの受身表現に -지다 (tfida) がある。 이러한 事實과는 關係없이 文學史的 連結點이 주어질 수 있다는 點은 否定되지 않는다(こうした事實とは關係なく文學史的連結點が与えられうという點は否定されない)。また, ○○는 뜨거운 사랑에 의하여 이루어진 것이다(○○は熱い愛によってなしとげられたものだ)。

上の文で, 주다(与える), 이루다(なしとげる)に지다がついた주어지다, 이루어지다等は, 確かに日本語の受身表現の翻譯に使われるが, 韓國語の지다自体は, もののなりゆきや変化, 「～のようになる」という意をあらわすもので, 受身の意識は副次的なものと思われる。

「衆生」들이 이 方法에 依해 써어진 것이다(「衆生」[作品名]などがこの方法によって書かれたのである)。この文の써어지다=쓰이어지다(書かれるようになった)のごとく, 쓰다(書く)の受身形쓰이다の上に, さらに지다をつけているところからみても, 지다が第一義的に受身を表現するとはいえないだろう。

たは-도록하다 (-torok hada) をつけて、実質的に使役の意味をあらわそうとする方法である。使役をあらわす接尾辞などを使うことなく、文中で動詞の主語を巧みに変えて表現する。(イ)の用例でいえば、「使用하다」(使用する)の主語は「外来者」であり、後の「하다」(する)の主語はかくされた主語「われわれ」である。「(われわれは)外来者が使用するようにした」という形で使役をあらわすわけである。

b 型

(イ) 今月かぎり退職させていただきます。

이 달로서 퇴職하겠습니다。

(この月をもって退職いたします)

(ロ) 法範疇は右のように展開をとげしめられるとともに、

法範疇는 위와 같이 展開할과 同時에

(法範疇は右のように展開することと同時に)

b 型は日本語の使役に対応する朝鮮語がないために他の表現をとるものである。「させていただきます」といったもってまわったいいかたは、ある意味ではきわめて日本的表現であるかもしれない。朝鮮語では直截に自分の意志を述べるだけである。

c 型

(イ) 先生が生徒に本を読ませる。

先生님이 學生에게 冊을 읽히다。

(先生が学生に本を読ませる。)

(ロ) 人を笑わせる。

남을 웃기다。

(他人を笑わせる。)

動詞語幹に使役の接尾辞히 (hi), 기 (ki), 이 (i), 리 (ri) 等をつけるのが c 型である。

d 型

(イ) 医者に健康診断をさせた。

医師에게 健康診断을 시켰다。

(医者に健康診断をさせた。)

(ㄱ) 伝染病을 発生させてしまった責任は重大だ。

伝染病을 発生시킨 데 대한 責任은 重大하다。

(伝染病を発生させたことに対する責任は重大だ。)

-하다(する)을-시키다(させる)にかえて使役をあらわす。二字の漢字語を語幹にもつ 하다 (hada) 動詞にはこの形をとれるものが多い。

〔三〕 朝鮮語の受身形・使役形

もとの動詞とその受身形・使役形の関係を述べるにあたっていくつかの限定条件をあらかじめ設定しておかなければならない。

(1) 意味領域の限定

一例을 나누다 (nanuda) という動詞にとる。この動詞は、①いくつかの部分にわけ、②ほかの人と飲食をともにする、③別々の方向に行く、④ほかの人と話を、⑤苦楽をともにする(苦楽をわちあう)、⑥同じ血筋をもつ、といった6つの意味をもつが、나누다の受身形나누이다 (nanuida)は①③⑥の受身についてのみ使われ、②④⑤については使われない。日本語でも「ぼける」に対して「ぼかす」があるが、「頭がぼける」に対し「頭をぼかす」が存在しないようなものである。しかし、以下の論述では、나누다に対応して나누이다という受身形が存在するということにする。

(2) 場の限定

먹다 (mökta 食う)に対して먹이다 (mögida 食わせる)がある。먹이다は確かに食わせるという意味だが、多くは家畜にエサを与えたり、幼児に食事をさせるような場合に限定して使われる。しかし、これもここでは먹다に対し먹이다という形があるとして扱う。

(3) 音声との関連

안다 (antta 抱く)の使役形は안기다 (ángida) でaのところアクセント

トがあり、受身形(안기다 *angida*) は i のところにアクセントがあるけれども、綴りとしては同一である。本論ではこうした類いを受身・使役同形と呼ぶようにして、音声面については触れない。

(4) 格助詞等文脈全体との関連

〔二〕章〔Ⅰ〕「使役の用例」a 型のところで触れた主語の問題もその一つであるが、煩瑣なので省略する。

以上 4 点はいちおう考慮外において話を先にすすめたい。朝鮮語の動詞は自動詞と他動詞にわかれる。もっとも *크치다* (*kŭtʃida* [雨が]やむ, [歌を]やめる), *다하다* (*tahada* 力をつくす, 力がつきる) 等, 一部の動詞は自動詞としても他動詞としても使われる。

他動詞の前には対格の吐(助詞)を伴った目的語である名詞が来るのが通常であるが、ときには対格の吐を伴っても自動詞である場合があるのは日本語と同じである。

숲속을 헤매다. 林の中をさまよう。

백리를 가다. 百里を行く。

헤매다(さまよう)。가다(行く)は自動詞である。

〔Ⅰ〕他動詞の使役形

一部の他動詞と自動詞は、おのおの使役形と受身形をもつ(この点英語などとはちがう。しかしながら、やはり他動詞の受身形、自動詞の使役形が圧倒的に多い)。第二章の受身の用例 d 型、使役の用例 c 型がこれで、その形態は、動詞語幹に接尾辞 이 (i), 히 (hi), 리 (ri), 기 (ki), 우 (u) を添加する。各 2 例ずつあげる。

(1) 接尾辞 이 (i)

먹다 (*mökta*) → 먹이다 (*mögida*) 食う → 食わせる

할다 (*haltta*) → 할이다 (*haltʃhida*) なめる → なめさせる

(2) 接尾辞 히 (hi)

업다 (*öpta*) → 업히다 (*öphida*) 세おう → 세오わせる

읽다 (ikta)→읽히다 (ilkhida) 読む→読ませる

(3) 接尾辞리 (ri)

갈다 (kalda)→갈리다 (kalrida) 磨く→磨かせる

벌다 (pölda)→벌리다 (pölrída) もうける→もうけさせる (=もうかる)

(4) 接尾辞기 (ki)

안다 (antta)→안기다 (angida) 抱く→抱かせる

씻다 (ssitta)→씻기다 (ssitkida) 洗う→洗わせる

〔Ⅱ〕 他動詞の受身形

(1) 接尾辞이 (i)

싸다 (ssada)→싸이다 (ssaída) 包む→包まれる

쏘다 (ssoda)→쏘이다 (ssoida) 射る→射られる

(2) 接尾辞히 (hi)

묻다 (mutta)→묻히다 (mutfhida) 埋める→埋められる

박다 (pakta)→박히다 (pakhida) はめこむ→はめこまれる

(3) 接尾辞리 (ri)

팔다 (phalda)→팔리다 (phalrida) 売る→売られる

밀다 (milda)→밀리다 (milrida) 押す→押される

(4) 接尾辞기 (ki)

신다 (sintta)→신기다 (singida) 履く→履かれる

씻다 (ssitta)→씻기다 (ssitkida) 洗う→洗われる

〔Ⅲ〕 自動詞の使役形

自動詞の使役形は、使役形であると同時に、もとの自動詞に対応する他動詞になる。

(1) 接尾辞이 (i)

죽다 (tfukta)→죽이다 (tfugida) 死ぬ→殺す(死なしめる)

나다 (nada)→내다 (næda←naida) 出る→出す(出させる)

(2) 接尾辞히 (hi)

식다 (sikta)→식히다 (sikhida) 冷める→冷ます

익다 (ikta)→익히다 (ikhida) なれる→ならす

(3) 接尾辞리 (ri)

날다 (nalda)→날리다 (nalrida) 飛ぶ→飛ばす

살다 (salda)→살리다 (salrida) 生きる→生かす

(4) 接尾辞기 (ki)

숨다 (sumta)→숨기다 (sumgida) かくれる→かくす

웃다 (utta)→웃기다 (utkida) 笑う→笑わせる

(5) 接尾辞이우 (iu) または우 (u)

타다 (thada)→태우다 (thæuda←taiuda) 燃える→燃やす

깨다 (kkæda)→깨우다 (kkæuda) 悟る→悟らせる

(6) 接尾辞구 (ku)

춧다 (sotta)→춧구다 (sotkuda) 突き出る→突き出す

얼다 (olda)→얼구다 (olguda) 凍る→凍らす

〔Ⅳ〕自動詞の受身形

(1) 接尾辞이 (i)

뜨다 (ttüda)→뜨이다 (ttüida) 目があく→目があけられる

(2) 接尾辞히 (hi)

질다 (kötta)→질히다 (kōthida) 霧・煙が晴れる→霧・雲が一掃
される

(3) 接尾辞리 (ri)

날다 (nalda)→날리다 (nalrida) 飛ぶ→飛ばされる

얼다 (yölda)→열리다 (yölrida) あく→あけられる

〔Ⅴ〕-hada 動詞の使役形・受身形

- (1) -하다 (hada ~する) 形の動詞では, -하다 (hada) のかわりに -시키다 (sikhida) を入れれば使役形に, -되다 (töda) を入れれば受身形になる。

解放하다(解放する), 解放시키다(解放させる), 解放되다(解放される), 推進하다(推進する), 推進시키다(推進させる), 推進되다(推進される)

- (2) 2字の漢字語を語幹に含む大部分の하다 (hada) 動詞は上記の形をとるが, 一部の하다動詞は-되다 (töda) 形を派生させない。これに属する하다動詞には以下のようなものがある(하다を省略)。

仮装 講習 拍手 男服 服従 飛行 旅行 干渉 物色 驚嘆 彷徨 談話 不平 待遇 覚悟
問答 激戦 傍観 努力 紛争 独唱 面刀(カミソリで顔をそる) 答状(返書)

- (3) 漢字一字からなる하다 (hada) 動詞は受身の-되다 (töda) 動詞を派生させず, 使役の-시키다 (sikhida) 形も派生させない。

滅하다 表하다 求하다 禁하다 等

- (4) 되다 (töda) 形があっても, これに代る하다 (hada) 形がない場合もある。したがって되다動詞のすべてが必ずしも受身とはいえない。

苛責되다 連係되다 相値되다 欠員되다
利益되다 所得되다 高潮되다 麻痺되다
既定되다 矛盾되다

〔Ⅶ〕 受身形・使役形にともなう諸点

- (1) 朝鮮語の大部分の動詞は, 受身形も使役形ももたない。すなわち, 動詞に接尾辞を付加する以外の形で, 受身・使役の意を表現せざるをえない場合が多い。たとえば, 次のような動詞は受身形も使役形ももたない。各2例ずつあげる。

他動詞

길다 (kitta 汲む) 하다 (hada する。思う)

自動詞

가다 (kada 行く) 오다 (oda 来る)

하다動詞

思慕하다 (samohada 慕う)

苦心하다 (kosimhada 苦心する)

(2) 使役形のみがあって受身形をもたない動詞

他動詞

신다 (sintta 履く)→신기다 (singida)

타다 (thada 燃える)→태우다 (thæuda)

自動詞

서다 (söda 立つ)→세우다 (seuda)

피다 (phida 咲く)→피우다 (phiuda)

(3) 受身形のみがあって使役形をもたない動詞

他動詞

누르다 (nurüda 押さえる)→눌리다 (nulrida)

꺾다 (kökkta 手折る)→꺾이다 (kkökkkida)

自動詞

열다 (yölda あく)→열리다 (yölrida)

트다 (thüda 間があく)→트이다 (thüida)

(4) 使役形も受身形もともにもつ動詞

(イ) 使役・受身が同形の動詞

안다 (antta 抱く)→안기다 (angida)

물다 (mulda 咬む)→물리다 (mulrida)

날다 (nalda 飛ぶ)→날리다 (nalrida)

(ロ) 使役・受身が異形の動詞

끼다 (kkida はさむ) 끼우다 (kkiuda はさませる) 끼이다

(kkiida はさまれる)

쓰다 (ssūda [帽子を] かぶる) 씌우다 (ssūiuda かぶせる) 쓰
이다 (ssūida) かぶせられる。

いま2~3例ずつしかあげていないのでわかりづらいかもしれないが、朝鮮語の他動詞には、使役形より受身形(被動態)が圧倒的に多く、自動詞には、受身より使役形がはるかに多い。他動詞にはその基本型を補うものとして、自動性をもつ受身形が要求され、自動詞にはその基本型を補うものとして、他動性をもつ使役形が要求されるからである。

動詞の使役形はそれ自体が他動性を持ち、受身形は自動性をもつために、他動詞または自動詞の使役形からあらたな他動詞が作られ、他動詞または自動詞の受身形からあらたな自動詞が作られる場合がある。1例だけあげれば、날다 (nalda 飛ぶ)という自動詞は、使役形날리다 (nalrida 飛ばせる、飛ばす)をもつ。その날리다 (nalrida)は「飛ばす」という原義から、「仕事をがんやってやる」「名をはせる」というあらたな意味領域を開拓することになる。

〔四〕 受身・使役表現の対照

国立国語研究所編『現代語の助詞・助動詞』に含まれる「れる」「られる」「せる」「させる」「しめる」の全用例の文章を朝鮮語に翻訳したとき、その朝鮮語はどんな表現をとるであろうか。そこに日本語との対応関係がみいだされるであろうか。あるとすればどんな対応がみられるであろうか。それがこの章のねらいである。

以下の表の(イ)(ロ)(ハ)…は『現代語の助詞・助動詞』の分類によるものである。用例の文が長い場合には、受身・使役表現の箇所を残して他の部分は省略した。用例中の日文の旧かなづかいの部分は新かなづかいに改めた。表の左側には日本語の原文を、右側にはその朝鮮語訳を、中央部分には、日本語の受身・使役を朝鮮語で表現する場合の形を類型別に表示した。

られる(受身)

(イ) 動作・作用の直接的受身。他動詞につき その他動詞の目的語が主格に立つ場合。	接尾辞	-patta -tang- haha	tōda
<p>子供のようにあやしなだめられなければならない 自分</p> <p>この研究は……イギリスのW・ワットらによっ てはじめられ、現在では……詳しく調べられ ており</p> <p>今日大学へ進む途は広くあけられている。</p> <p>手数料が実質的に上げられているため</p> <p>効果が達せられるという事態は</p> <p>こんど避妊薬が公認され、又妊娠中絶公認の法 案が国会にかけられるなど</p> <p>大きな例外が認められることになった</p> <p>明日にもあそこに追いつめられるのだろうな。</p> <p>この城は、この方面から攻められれば、</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>
(ロ) 動作・作用の間接的受身。(イ)と同様、 他動詞につくが、その他動詞の目的語が目的格 に立つ場合。すなわち、主格は別に存立しうる。			
<p>せっかくの創意を、まねられないようにしたい ものだ。</p> <p>三振王なんて、あだ名をつけられているんだ。</p> <p>内緒ごとを見られちゃった。</p> <p>生じか手を取って教えられるよりも</p> <p>私何でも姑に相談しますが、教えられることば かりです。</p> <p>あのノートを棄てられれば、もう代りがない。</p>		<p>○</p> <p>○</p> <p>○</p>	
(ハ) 動作・作用の利害関係(迷惑の場合が多 い)。自動詞につく。			
<p>ペニシリンのおかげで、女房に寝られずにすん だ。</p> <p>女は店の馴染客のひとりに家に遊びにこられた 上、</p>		(○)	

不可能	備 考 (朝鮮語訳の直訳)	朝 鮮 語 訳
○	<p>こどもをなだめるような取扱をうける自分</p> <p>あがったことのため</p> <p>上程される</p> <p>認定される</p> <p>攻撃を受ければ</p>	<p>애기를 달래는 듯한 취급을 받는 자기</p> <p>이 연구는英國의 W·왓트 등에 의하여 始作되고 지금은詳細히 調査되고 있다.</p> <p>오늘 大學으로 進學하는 길은 넓게 열리고 있다.</p> <p>手数料가 實質적으로 올랐기 때문에 (引上되고 있기 때문에)</p> <p>效果가 達成되는 事態는</p> <p>이번에 避妊藥이 公認되고, 또 妊娠中絶公認의 法案이 國會에 上程되는 등 큰 例外가 認定되게 되었다.</p> <p>來日이라도 저기에 물리게 될 것이다.</p> <p>이 城은 이 方面으로부터 攻擊을 받으면</p>
○ ○ ○	<p>盜賊に当らない</p> <p>別名を得ている</p> <p>秘密がばれる</p> <p>指導をうける</p> <p>教えをうける</p> <p>棄てるようになれば</p>	<p>貴重한 創意를 남에게 盜賊을 當하지 않게 하고 싶다,</p> <p>三振王이라는 別名을 얻고 있다.</p> <p>秘密이 들키고 말았다.</p> <p>어질피 親切하게 指導를 받는 것 보다는</p> <p>저는 무엇이든지 시어머니에게 相議를 합니다만 모든 것에 對해서 裁우침을 받고 있습니다.</p> <p>저 空冊을 버리게 되던 이젠 予備가 없다.</p>
○ ○	<p>女房が生きた</p> <p>客が尋ねてきた。彼女は</p> <p>はその訪問を快く思</p>	<p>페니실린의 덕택으로 우리 마누라 살았다.</p> <p>그녀의 店房에 늘 出入하는 단골 손님의 한 사람이 그 女子의 집을 찾아왔다. 그는 그</p>

	<p>わなかったが、 (訪問を受けた。その上)</p>	<p>訪問을 달갑게 여기지 않았는 데다가 (女子는 그녀의 店房에 늘 오는 단골 손님 중의 한 사람에게 어저지 訪問을 받았다. 게다가)</p>
○	女房じまんを聞くことの準備だ	그 막위 소리 하면 정말 또 마누라 자랑을 듣기 마련이다.
○	なぜそんなに腹をたてるのか僕はわからん	왜 그렇게 화를 내요? 정말 나 그 原因을 모르겠는데.
○	らんぼうをすれば	그렇게 집 안에서 行惡을 하면, 거북하지 않게 석길 사람은 없을 것이다.

不可能	備 考 (朝鮮語訳の直訳)	朝鮮語訳
○	<p>許容されない 意図がかくすようになっているだろう</p>	<p>記録되지 않기 때문에 貨客輸送은 許容되지 않다. 意圖가 감추어져 있을 것이다.</p>
	選拔された	<p>国立学校設置法도 国会에 提出되었다. 選拔된 秀才以外에는 좁은 門이었다. 價值判断의 基準이 놓인다. 會議는 23日 파리에서 열린다. 講和의 길이 열릴 轉機로 될 것이라는 意味의 말을 했다.</p>
○	<p>表示される 体験によって語れば</p>	<p>方向이 表示될 것이지만 五月末에 열리는 日教組全国大会는 만약 体験에 의해서 말하면 (긴 것에는 말리라.)</p>
○	<p>嘲笑にあたる 君からそうしたことばを聞かなくても</p>	<p>無知를 嘲笑 當하지 아니하던 안될 것이다. 새삼스러이 군에게 그런 말을 듣지 않더라 도</p>
○	重傷を負った	<p>短刀로 腹部를 찔려 瀕死의 重傷을 입었다.</p>
○	<p>花山教授がもってきた BC級死刑者の遺書を見て</p>	<p>花山教授가 가지고 온 BC級 死刑者의 遺書를 보고</p>

通貨を奪われていたのである。 ウマヤの馬を殺された腹イセか	○		
あたしゃ、この年まで、お前にそんな隠しごと をされるとは思いもよらなかった。	○	○	
着物をごっそり盗まれるという酷い目にあい 偏見や利欲に明を奪われることなく そんなに勝負が早くちゃ取られるのも早い訳で すね。 家を焼かれれば誰だって弱ります。			
(ハ)			
雨にも降られず、幸いであった。 主人と二人の子供に死なれ			
こうちょいちょい出はいりされちゃ、 女は僕に去られると			
何か格が下がる様に思われるのが損ですわ。			
子供にわめかれればわめかれるほど			

させる(使役)

用 例	接尾辞 i, hi, ri等	-ke hada -(す)る ようにす る	-sikida -させる
投書を止めさせようとした。			(○)
考えさせられました。 奥さんを人目にふれさせまいとして			
ほしいものに○をつけさせ、それをたべさせて くれました。 赤ちゃんが満足するまで充分に食べさせてくだ さい。	○	○ ○	

○	ウマヤの馬を殺した事 に対する報復か	通貨를 빼앗기고 있었던 것이다. 마구간의 말을 죽인 데 대한 報復인가 나는 너에게 그렇게 까지 속힐 줄이야 꿈에 도 몰랐다. 나는 너에게 그렇게 까지 속임 당할 줄이야 꿈에도 몰랐다.
○	盜賊にあう	옷을 몽당 盜賊 맞는 등
○	目が暗くなることなく	偏見이나 利欲에 눈이 어두워짐이 없이
○	失ったのも早い	그렇게 勝負가 빠르면 잃은 것도 빠르겠네 요.
○	家が燃えれば, (火災が 出れば)	집이 타면 (火災가 나면) 누구나 困難할 것 이다.
○	雨も来ないで	비도 오지 않아서 多幸이었다.
○	主人と二人の子供をなくし	主人과 애기 둘을 없애고
○	数多く出入をしては	이렇게 수다스럽게 出入을 해서는
○	女は, 僕が出て行った あと	그 女子는 내가 나간 뒤에는
○	思うようになるのは	格이 낮아지는 것같이 여겨지는 것이 안타 까워요.
○	子供がわめけばわめく ほど	어린애가 行惡을 하면 할수록

不可能	備 考	朝 鮮 語 訳
○	妨げようとした。(中 止させようとした)。	投書를 막으려고 했다。(投書를 中止시키려 고 했다。
○	何度も考えました	생각하곤 했습니다。
○	夫人が人の目につかぬ ように まる印をつけるように し食べるようにする	夫人이 남의 눈에 띄지 않도록 먹고 싶은 것에 공을 치게하여 그것을 먹게 하였습니다。 애기가 満足하도록 充分히 먹이여 주세요。

久慈捕手は……四球五球つづけさまに投げさせ たが			○
手柄はたてさせたい。しかし	○		
理由を述べさせていただきます。			
日本のものと変らないものを食べさせるという 事を主眼とし			○
作業係りの方で枯枝を集めさせるというと警備 隊の方では	○		
捕手は……投球をやめさせると			○
退屈を感じさせる事は禁物です。	○		
用を弁じさせるのだそうである。			○
これを……夕飯に食べさせるわけです。	○		
小うるさいお客さんだと、洋服屋に悲鳴をあげ させるようでなければ			
そんなきたないもの、早く棄てさせればいいの に。	○		
あの男には、あそこの棚を見させる。	○		

しめる(使役)

用 例	接尾辞 i, hiri 等	-ke hada	-sikida
法範壽は右のように展開をとげしめられるとと もに			
その支配を一面的ならしめられることがない。			
地方会計には地方起債等を発行しめてきたが			○
悪質なものに内証せしめるに過ぎない		○	○
大資本にのみ利潤を保証せしめるところの			○
計画を水泡に帰せしめるかも知れぬ		○	
私をしていわしめれば			

せる(使役)

用 例	接尾辞	-ke hada	-sikida
黒白のきまるまでは使わせない。		○	

○	たててやるようにした理由を述べます。い	久慈捕手는 四球 五球 계속 投球시켰습니 다만 功績은 세워 주게 하고 싶다. 그러나 理由를 말하겠읍니다. 日本 것과 같은 食事を 시킨다는 것을 主眼 으로 하여
○	集めるようにしようと すると警備隊では	作業係에서는 다른 가지를 주워 모으게 하 려고 하면 警備隊에서는 捕手는...投球를 中止시키자 倦怠感을 느끼게 하는 것은 禁物이다. 用件을 시킨다고 한다. 이것을 저녁 食事 때 먹게 하는 것입니다. か다로운 손님이라고 洋服집 主人이 悲鳴을 지를만한 사람이 아니면 그런 더러운 것, 빨리 버리게 하도록 하면 좋을 걸 그 사나이에게 저 선반을 보여라.

不可能	備 考	朝鮮語訳
○	展開すると同時に	法範疇는 위와 같이 展開함과 同時에
○	支配が一面的に規制さ れる	그 支配가 一面적으로 規制될 수가 없다. 地方會計에서는 地方起債 등을 発行시켜 왔 으나 惡質한 것으로 内証되게 함에(시킬 것에) 지나지
○	内証されるようになる (内証させるものに) 利潤を保証した(保証 させた)	大資本에만 利潤을 保証한(保証시킨) 計画을 水泡로 돌아가게 하게 할는지도 모 르는
○	私はこう思います	나는 이렇게 생각합니다.

不可能	朝鮮語直訳	朝鮮語訳
	使えないようにする	黑白이 決定될 때까지는 못쓰게 한다.

それをねえちゃんにいわせようなんて		○	
売春させられている女たちは 無理に薦めて承知させ みすみす死なせはしなかったわ。 お騒がせして申し訳ありません。 ジェリーの気を悪くさせたりした。 私も失礼させていただきます。 加工品の製造・販売を厳禁する建前で運営をさ せる。 年増を泣かせるとはすごい腕だ。 おこらせるといけないわ。 麦を早播させるからこんななのだ。			○
おいしいものを食べさせるね その矛盾をうめること、調和させることが難し いですね。 これを一定速度で回転させるもので 声を出させるのはどのようにして？ 民主連合政府を成立させ、全中国を統一させる ために必要な一切の準備 ディックを勝たせる様に頼んだ 私にいわせれば ひと通り喋るだけ喋らせろ	○	○	○ ○ ○ ○ ○

〔五〕 おわりに

朝鮮語の受身・使役についての研究は、日本ではもちろん、本国でも進んでいるとは思えない。現在の段階で日本語との対照を試みるのは蟬螂の斧にも似た力にあまる作業であるかもしれない。それでもなお日本語教育の現場が必要としているならば、前章の対照作業から、つぎのことくらいはいえるのではないかと思う。

(1) 日本語の「れる」「られる」「せる」「させる」は、一部の動詞(たとえば、飲める、読める、にあらう、いる〔要〕、みえる、きこえる、ある等)を除いては大部分の動詞に接続可能であるのに、朝鮮語では接尾辞添

		언니가 말하게 하려는 것은 너무 하지 않으나
○	強要されている女	売春을 強要하고 있는 女性들은 억지로 勸하여 応諾시키고
○	騒ぎをおこして	쉽사리 죽게 하지는 않았을 거야.
○	私ももう帰ります。	소동을 일으켜 죄송합니다. 주리의 氣分을 傷하게 하곤 하였다.
		저도 이제는 돌아가겠습니다.
		加工品の 製造・販売을 原則적으로 嚴禁할 方針으로 運營시킨다.
		中年女人을 올린다는 것은 굉장한 手腕인데.
		화를 내게 하면 안돼요.
○	播種をあまりに早くしたから	보리 播種을 너무 빨리 하니까 이런 形便이야.
○	うまい飲食を出す	맛 있는 飲食을 내놓은 것이구나. 그 矛盾을 없이는 것, 調和시키는 것이 어렵군요.
		이것을 一定速度로 回轉시키는 것이고 소리를 내게 하기 위해서는 어떻게 하면 民主聯合政府를 成立시키며, 全中國을 統一시키기 위한 必要한 一切의 準備 덕을 이기게 하도록 付託하였다.
○	わたしの意見をいえば	나의 意見을 말하면 끝까지 말을 시켜라. (다 말을 시켜라)

	接尾辞	patta tanghada	tōda	不可能
られる	2	6	6	9
れる	9	2	5	16
計	11	8	11	25

	接尾辞	ke hada	sikida	不可能
させる	2	7	5	5
せる	1	7	7	6
しめる	0	2	3	4
計	3	16	15	15

加法によって、受身・使役を表現できる範囲はきわめて限られる。前章の対照表で○印の数をかぞえたと前ページの表のようになる。

朝鮮語でいう「被動形」*phidong hyōng*「使役形」(*sayōkhyōng*)は、接尾辞添加型に属するものだけをさす。*patta*, *tanghada* が受身をあらわし、*ke hada*, *sikida* が使役を文脈の中で表わすからといって、それを「被動形」「使役形」とは呼ばない。(だから朝鮮語の「被動形」・「使役形」と、日本語の受身・使役を比較するならば、狭く考えれば接尾辞添加型との比較だけを論じればよいわけである。)

朝鮮語の「被動形」「使役形」がいかにきゅうくつであるかは上記の表をみれば一目瞭然である。「れる、られる」の用例 49 例を朝鮮語に訳したとき、「被動形」を使えるのがわずか 10 例。(むりすれば 11 例)。使役の場合は、日本語の「せる、させる、しめる」をあわせて 46 例のうち朝鮮語の「使役形」で表現できるのは、わずか 3 例である。受身・使役をあわせれば、日本語 95 例中 13 例が接尾辞型で表わせるだけである。朝鮮人にとって、日本語の受身・使役がにがてなのは、こうした事情からも当然のことといえる。かれらが「語順がきわめて近いから日本語はやさしい」という結論に到達しえない所以である。

(2) 日本語で受身表現をとる場合、49 例中 25 例で朝鮮語ではいかなる形をとろうにも受身・または受身的表現をとることができない。使役についても、46 例中 15 例は不可能に属する。この場合、発想の転換をしいられることになる。どのような発想の転換をしいられるかは、前章の表の備考欄に記しておいた。

(3) 受身の表現が朝鮮語ではかなりきゅうくつだとさきに述べたが、いわゆる「迷惑の受身」(自動詞の受身形)は、100 パーセント朝鮮語では受身表現をとれない⁵⁾。

(4) 「非情の受身」(動作をしかけるものと動作を受けるものとがあって、動作を受けるものを主語とする直接的受身)、たとえば「個性が尊重される」式の表現は、西欧語の影響を受けたものであろうが、朝鮮語でも

現在ではごく一般的に使われる。ことに学術論文などには多用されている。

(5) 2字の漢字語を語幹にもつ hada 動詞(日本語の、名詞+する、の形に似る)については、動詞の意味や性格にかかわりなく、tōda をつけて受身を、sikida をつけて使役をあらわすことができる。もっとも、tōda 形をもたない動詞もあり、また、tōda 形をとってもその動詞がすべては受身でないことは、三章で述べたとおりである。これに対して、sikida はいかなる場合でも使役を表わす。

(6) 使役表現でもっとも多いのは ke hada (～のようにする)という表現である。この表現の場合、日本語と朝鮮語では主語がかわってくる。たとえば「かれをおこらせるといけない」というのを朝鮮語では「(あなたは)「かれがおこるようにするといけない」と表現する。

(7) 「考えさせられる」式の、受身と使役を重ねた表現——実際上の意味としては、自然に誘発されて変化するさまを示す表現——は朝鮮語にはない。「発展をとげしめられる」も、朝鮮語では「発展する」というほかない。

(8) 本論は、日本語をもとにして朝鮮語の受身・使役の表現をみてきた。つまり、日本語の受身や使役を、朝鮮語ではどう表わすか、という点にだけ留意してきた。しかし、ほんとうはこれだけでは不十分である。というのは、日本語で受身表現をとらない場合にでも、朝鮮語では受身の形式をとることがままあるからである。日本語で「黒白がきまるまでは」というところを朝鮮語では「黒白이 決定될 때까지」(黒白が決定されるときまで)と表現し、日本語で「哲学と密着する」とするところを、朝鮮語では「哲学과 密着된다」(哲学と密着される)とし、「都市人口の集中現象

5) 147 ページの表は、「れる、られる」の用例 49、「せる、させる、しめる」の用例 46 について、朝鮮語訳の対応関係を示している。表の数字の合計が、受身 52、使役 49 となっているのは、1 つの用例が朝鮮語で 2 つの形で表わされる場合、つまり(四)章の表で○印が 2 つつけられている場合、2 と数えたからである。こうした重複は、「られる」で 2 例、「れる」で 1 例、「させる」で 1 例、「しめる」で 2 例ある。

等が作用する」を「都市人口의 集中現像등이 作用된다(作用される)」とし、「精神史的問題にかかわる」を「精神史的問題에 関連된다(関連される)」とする。日本語の能動態表現が朝鮮語では受動態をとるのは漢字語 +되다 (tôda) の場合に限られるようである⁶⁾。

以上、結論めいたことをいくつか述べてきた。もう少し深い分析が要求されるかもしれないが、いまのところはこれ以上のことはいえそうもない。もし、日本語教育者にとって参考になることがあるとすれば、それは結論部分よりは、結論を導きだすに至る二、三章の作業のほうにあるかとも思われるが、枚数の関係で資料を大幅にカットしたのが心残りである。

参考文献

大韓民国

「国語学概説」韓国語文学会編，螢雪出版社，1966年初版。

「増補版国語学概説」金亨奎著，一潮閣，1976年。

「国語文法論研究」李吉鹿著，日新社，1974年。

「新国語学」金敏洙著，一潮閣，1964年。

朝鮮民主主義人民共和国

「조선어문법」(朝鮮語文法) I, II. 科学院言語文学研究所言語学研究室編，科学院出版社 I. 1960年。II. 1963年。

「조선어문법」(朝鮮語文法) 高等教育図書出版社，1964年。

中華人民共和国

「朝鮮語実用語法」北京 大学 東語朝鮮語専業会・延辺大学朝鮮系朝鮮語専業会編，商務印書館，1976年。

日本

「品詞別日本文法講座」助動詞 II. 明治書院，S 47年。

「現代語の助詞・助動詞」国立国語研究所，1951年。

「古典語現代語助動詞詳説」松村明，学燈社，S 46年。

「現代日本語の表現と語法」佐久間鼎，恒星社厚生閣，S 32年。

「自動化・他動化および両極化転形」奥津敬一郎「国語学」70，S 42年9月。

「日本語の助動詞と助詞」大野晋，岩波講座，日本語7所収 S 52年。

6) 朝鮮語自体の問題としては、～되다가はたして「被動形」かという大きな問題が残る。